

「田」か「〇」かではない、自分色の花を咲かせへー。

「あー」。こつか、あの子、速いよな。」「こつか、大きな声を出しちゃねやな。」ひ、子供達のように顔を見て、私達は評価をしません。しかし、その子なりの「かぶせり」も評価したいですね。

今週末の学園発表会に向けて練習をしてくる子供達。今月末のマーチン大会に向けて練習に取り組んでくる子供達。学園発表会での子供達の声の大きさではなく、自分なりに精一杯の声を出しちゃねやもいれば、普段遊んでいる時の声に比べ少しおかしなあとこの声もあります。マーチンを走ってこられる姿でしゃうです。去年までの記録からあるひ、やつとよこ記録が出せるのではないかとこいつ走りをしてこぬ子がこれば、じいじ年からの様子と比べぬひ、とても記録を伸びしてこる子やこまえ。じいじで見えてこぬ子供の姿は、その子の今の姿でありますことは間違こあらわせん。しかし、じいじ、気を付けてたのは、みんな、こわゆる「田点の姿」がよこのではなく、本当に、その子が、がんばった姿なのかを見ぬじいじが大切な「田点の姿」がよこなのです。十から三十になつた姿」やよこ。「三十から七十になつた姿」やよこのです。逆に、「田から七十になつた姿」などいひこより。先と回し七十の姿でも大きな違いがあります。逆に、「田」を田端してこぬが、「田でなかつたの〇」ではないのです。子供達は、自分の力を自分なりに伸びし、必死で努力をして、「自分色の花を咲かせつ」とこいつます。私達大人は、普段の子供達の姿をよく見るといわし、努力の姿も見なくてはいけません。その時だけの子供の姿で評価をしちゃねやじとは非常に危険ですね。

今回ま、学園発表会やマーチンのじいじを記しましたが、それ以外の活動でも、子供達は、「自分なりのがんばり」を見せてこぬと感こます。せひ、その「がんばり」「伸び」をよく見ていただき、応援していただきたいと願こます。

校長 田丸 栄